



KADENA SKOSHI

JAN & FEB 2011

Vol. 28 & 29



第18航空団広報局発行



Lt. Gen Burton M. Field



在日米軍司令官、嘉手納基地を初視察 USFJ, 5 AF top leaders visit Okinawa

第18航空団広報局

2010年10月に在日米軍及び第5空軍司令官に就任したバートン M. フィールド中将が、嘉手納基地を初めて視察しました。嘉手納基地の航空兵や上級幹部らと意見を交わし、任務や課題を確認し、嘉手納基地と在日米軍として包括的な関心事を話し合いました。また嘉手納基地に駐留する海兵隊、陸軍、海軍を含むパートナー部隊も視察しました。バートン中将の下で、第5空軍の下士官司令を務めるアンディー・カイザー上級曹長も同行しました。

(写真3点、米空軍：ブルーク・ビアーズ上等兵撮影)



Commander, U.S. Forces Japan and
Commander, 5th Air Force
Lt. Gen Burton M. Field



Commander, U.S. Forces Japan and Commander, 5th Air Force

• CONTENTS

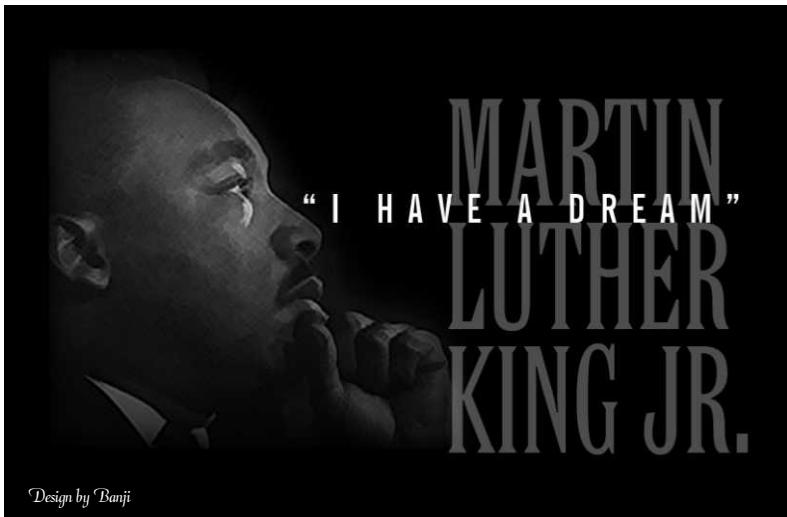
PART I

在日米軍司令官、嘉手納基地を初視察
マーティン・ルーサー・キングJr.デー
日米エアフォース友好協会表彰式
日米合同訓練キーンソード

PART II

クリスマスのクッキー・デコレーション
嘉手納CGOCから子供達へのクリスマスプレゼント
嘉手納外語塾生、インターンシップを通して学ぶ
第390情報中隊、子供達を招いてのクリスマスパーティー





Design by Banji



嘉手納基地では、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア・デーを祝福する昼食会が1月16日に開催され、ゲストとしてF-15戦闘機のテストパイロットであつたりチャード・トリバー元大佐が招待されました。トリバー元大佐は、「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアは、今日のアメリカの変化をきっと誇りに思うことでしょう。」と400名以上の空軍兵及び一般の嘉手納基地関係者の方々を前に、スピーチを始めました。

「彼の人類への貢献を振り返るとき、そして人種差別を禁止する公民権運動を前進させる為に捧げた功績を思うとき、マーティン・ルーサー・キング・デーは、グレート・アメリカンとして、愛国者として、そして人間性への奉仕者として祝う、大変意義深い日となっています。実際に彼は、私にとって、そして多くの人々にとって神からの贈り物のような方でした。」

トリバー元大佐は、キング牧師に実際に会った際の、偏見及び人種差別の撲滅にかけた彼の情熱と、当時の偏見の中で行なわれた非暴力抵抗運動の様子を、語りました。又、前回のアメリカ大統領選についても触れ、彼が最初にキング牧師に会った頃と比較し、人種差別を乗り越えて現在に至るまでのアメリカの長い道のりと、大きな変化についても述べました。

「今日の米軍の様子を垣間見る時、同じように変化を見て取る事が出来ます。その変化とは、柔軟に、革新的に、そして何よりも重要な事として、男性も女性も平等に軍のリーダーとして働く様子を至る所で見かける様になったことです。」

「しかしながら、世の中にはまだ人種差別が存在します。そして、自分自身の軍でのキャリアにおいても、人種差別は存在しました。私は米国空軍にて大佐の役職につくまで、自身の功績、能力、操縦技術を通じて、困難を受け止め克服してきました。」と、彼自身が人種差別と葛藤した一人として、困難を克服してきた事を話しました。「米軍は大きく躍進しました。30年前には女性のパイロット、女性の士官学校生、女性の大将などはありませんでしたが、現在は米国陸軍に女性の大将がいる他、各軍にも女性の将官がいます。」

トリバー大佐はこう続けます。「これはアメリカ史上、歴史に残る、類をみない極めて有利な機会と言えましょう。」そして現代の現役軍人達に対して、その利点を最大限に利用し、現在起きている変化を受け入れる事を勧め、最後にこう締めくくりました。「我々は歴史の中にいるのです。能動的に行動し、ひたむきに取り組み、積極的にこの変化に参加しましょう。現在起きている事は、キング牧師の功績を反映し、そして私の様に人種差別や抑圧の恐怖に泣き、葛藤し、立ち上がった人々の行動に反映しているのです。現代のアメリカで起きていることを大変喜ばしく思っています。それはキング牧師が掲げていた夢であり、私の祖先達の夢であり、そして私が米国空軍での若い将校時代に人種差別に立ち向かっていたときの希望だったのです。」



(写真提供：航空自衛隊)

2011年2月4日、那覇基地において日米エアフォース友好協会（Japan-America Air Force Goodwill Association - JAAGA）主催の平成22年度表彰行事が行われました。

例年、JAAGAより、航空自衛隊および米空軍との相互理解と友好親善の促進に顕著な功績のあった航空自衛隊及び空軍隊員が表彰されています。今年度は、米空軍から第18航空団のキャリア・アシスタンス・アドバイザーを務めるジェリー・レイニー曹長と、航空自衛隊 南西航空混成団司令部人事課訓練班の波木宏将1曹の2名が功績を評価され受賞しました。レイニー曹長は、空軍下士官隊員への教育セミナーの企画、統括や実施、さらに航空自衛隊員への空士能力向上訓練も行うなどし日米隊員親善に貢献した事が評価され、今回の受賞となりました。表彰行事に第18航空団から出席した第18任務支援群司令官ラファティール・コンスタンティーン大佐は「お二人が関わった交流プログラムやセミナーなどは、米国空軍、航空自衛隊にとって、お互いの同志としての信頼、団結心を高めるものとしてきわめて重要です。高いP&O意識をもって職務に勤めていることに対し感謝します」と祝辞を述べました。





12月3日から10日にかけて、およそ15000人の米軍人と自衛隊員が日本本土、沖縄そして日本周辺海域にある軍関連施設等で、2011年キーンソード(Keen Sword)演習に参加しました。この演習は、日米の軍事的相互運用能力を強化し相互の防衛目標を達成するため、定期的に計画 実施されている演習です。

「キーンソードは『対等な同盟』である日米同盟の50周年の最後を締めくくる演習となります」と、運用計画、訓練及び演習担当のウィリアム・ヴォス少佐は話しました。「これは米軍と自衛隊における最大規模の合同演習です。（演習により）両国は様々な突発的状況へ対応する即応態勢を強化することができます。」

演習では、統合防空、ミサイル防衛、基地防衛、部隊防護、地上部隊と連携しての航空支援、実弾訓練、海上防衛 阻止行動、そして捜索救難等の訓練が実施されました。

「非常にきびしい環境の下で戦闘医療活動を行う『ガーディアン・エンジエル』と呼ばれる救難専門兵は、特殊な地上救急医療技術を持っています」と、第31救難中隊のロバート・ウィルソン大尉は話しました。更に「キーンソード演習で、第31救難中隊と第33救難中隊の空軍兵が、自衛隊員と共に各々が持つ技術を駆使した訓練、共有を図ります。演習では主に海上救難、空中からの救助手順や車両から人員救出を訓練します」と加えました。

また演習では、日米の参加者が調整手順と相互運用能力の要件に関して訓練し評価することも目的としています。

ウィルソン大尉は、「日米双方の参加者が相互能力と救難の制約について理解を深めることを期待しています」と話し、「キーンソードのような演習は、受け入れ国とのさらなる友好を培う好機となり、今後の相互運用能力の実践において非常に有益です」と述べました。

キーンソード演習は現在の国際情勢に対応 反映するものとして計画されたものではなく、また特定の国に向けられているものではありません。この日米共同訓練は、何年にもわたって定期的に幾度となく行われている演習です。

「キーンソード演習は、日米同盟のさらなる発展をみすえ、我々の二国間関係を強化し向上させます。現実的な訓練環境を設定することで、自衛隊と米軍が多様な状況に対応できるようになります」と、ボス少佐はその意義を強調しました。

